

# 事後評価調書

## 【公園事業】

まちづくり局 公園緑地課

## 事後評価調書

部課室名	県土整備部まちづくり局 公園緑地課	記入責任者職氏名 (担当者氏名)	公園緑地課長 橘 俊光 (課長補佐兼整備係長 塚原 淳)	内 線	4 4 7 5 (4 4 8 6)
------	----------------------	---------------------	---------------------------------	--------	----------------------

事業種別	都市公園事業	事業名	東播磨都市計画公園事業	事業 主 体	兵庫県
路線名	播磨中央公園		所在地	加東市上滝野、下滝野、河高	
事業目的			事業内容		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・当公園は、中国縦貫自動車道沿線を文化交流の動脈として、自然と文化の地域社会創造を目指す「緑の回廊計画」(昭和47年県策定)の主要施設として位置づけられ、播磨地域を中心とする広域レクリエーション需要に対応する、兵庫県初の本格的な広域公園として事業に着手した。</li> <li>・豊かな自然環境の中に修景施設、運動施設をはじめ各種の公園施設を整備し、散策、遊戯、スポーツなど広域レクリエーションの場を確保することを目的として整備した。</li> </ul>			<p>公園面積 A = 181.7ha (全体計画面積A=381.6ha)</p> <p>南地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツゾーン A=18.0ha (テニスコート・野球場・球技場・アーチェリー場)</li> <li>・サイクルランド A=12.5ha (サイクリングコース・サイクリ広場等) ( (財)兵庫県園芸・公園協会が県より設置管理許可を受け整備)</li> <li>・ファミリーゾーン A=36.0ha (グリッドベンチャー・野外ステージ・芝生広場・子供の小川等)</li> <li>・フラワーゾーン A=31.9ha</li> </ul> <p>上滝野地区</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然散歩ゾーン(園路) A=24.8ha</li> <li>・自然保全ゾーン A=58.5ha</li> </ul> <p>[国：用地 1/3 施設 1/2、県：用地 2/3 施設 1/2]</p>		
事業期間	計画	昭和48年度～平成17年度	事業費 (用地補償費)	計画	約230億円(約84億円)
	実績	昭和48年度～平成16年度		実績	約228億円(約84億円)
完了年月	平成17年3月		過去の評価	平成10年 再評価(継続) 平成15年 再々評価(継続)	

### 事業を取り巻く社会経済情勢等の変化

- ・昭和50年10月に関西と九州を結ぶ中国縦貫自動車道が開通し、滝野・社インターチェンジが社町に設置された。
- ・播磨中央公園の事業着手後、公園隣接地に旧滝野町役場の移転が決定し、役場新庁舎(S59)をはじめ文化施設(加古川流域滝野歴史民族資料館(S55)、滝野文化会館(S59)、滝野図書館(H7)、滝野公民館(H18))や福祉施設(滝野温泉ぼかぼ(H12))が集積して整備されるなど、県立公園を中心として町行政機能が連携したまちづくりが進められた。
- ・阪神・淡路大震災の経験と教訓を踏まえ、兵庫県地域防災計画(H10)において、新たに北播磨地域の広域防災拠点として播磨中央公園が位置づけられる。
- ・平成18年3月20日に加東郡3町(社町・滝野町・東条町)が合併し、加東市となる。
- ・北播磨地域(三木市、加東市、小野市、西脇市、加西市、多可町)の人口は、昭和50年の約259千人に対し、平成20年が約287千人と約28千人増加(人口増加率：1.1倍)している。

### 都市公園の整備・管理運営に関する変化

- ・計画が策定された昭和40年代と現在を比較すると、自由時間の増大やライフスタイル等が大きく変化しており、都市公園においても、子供から高齢者、家族連れなどが憩え、楽しむなどのレクリエーション活動に加え、大会や公式競技に対応する運動施設、環境教育・学習など自然体験学習のための施設、災害時における防災機能を兼ね備えた防災施設など、多種多様な機能を求められるようになった。
- ・また、公園の利用面でも、県民の参画と協働による自主企画運営プログラムの実施や、花と緑の各種イベントが行われるなど、新たな活動が展開されるようになった。
- ・平成15年度の地方自治法改正により、公の施設の管理運営を県以外に委ねる場合について、従来の「管理委託方式」が廃止され、「指定管理者制度」に移行した。これに伴い、当公園の管理運営についても平成18年4月より指定管理者に(財)兵庫県園芸・公園協会を指定し実施している。

事業の効果の発現状況

想定した整備効果等

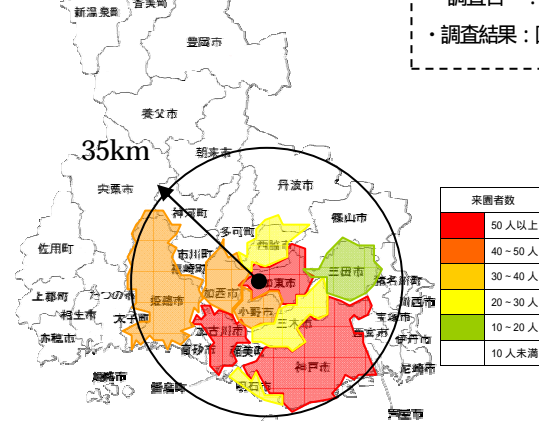
【直接効果】  
播磨内陸部の中核となる広域公園としての機能発揮

整備後の状況

利用実態調査から推定される利用圏域は、地元加東市をはじめ、神戸から姫路の播磨臨海部も含む広域に及んでいる。また、利用者の8割は1時間圏域(半径35km)に居住し、公園までの交通手段は、自家用自動車が約96%を占めている。

【図 - 1】

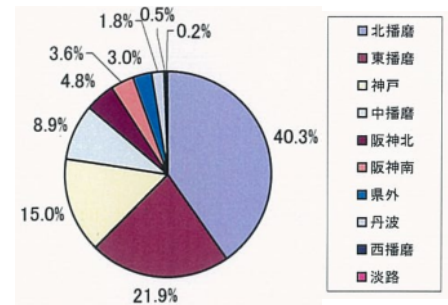
利用圏域



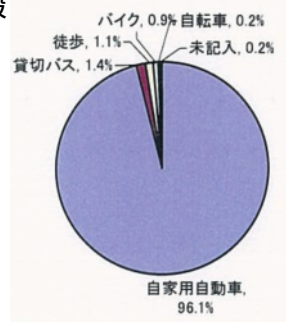
【平成19年利用実態調査】

- ・実施者：指定管理者((財)兵庫県園芸・公園協会)
- ・調査日：平成19年11月10日(日)～23日(金)
- ・調査結果：回答者総数439人

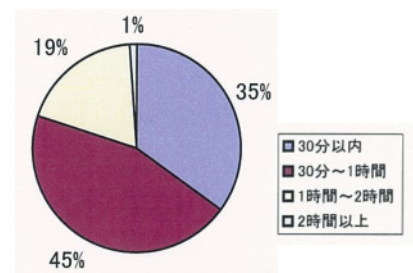
利用者の居住地



交通手段



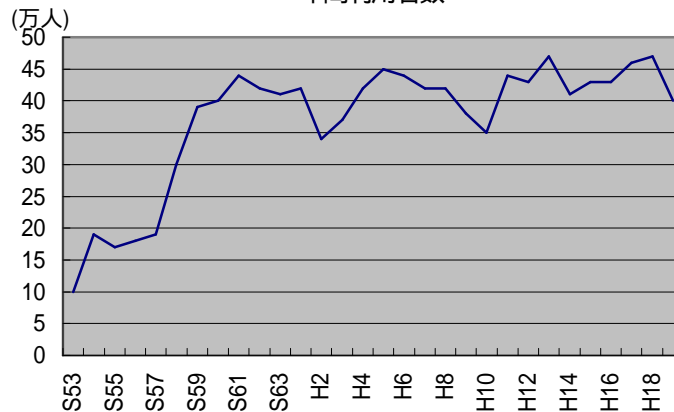
公園までの所要時間



年間利用者数は、昭和58年4月の「サイクルランド」、「子供の森」の追加開園を契機として大幅に増加し、昭和60年度からは年間約40万人前後で推移している。また、昭和52年時点では、約80万人と推定しており、現開園面積181.7haで換算すると約38万人となり、目標を達成している。

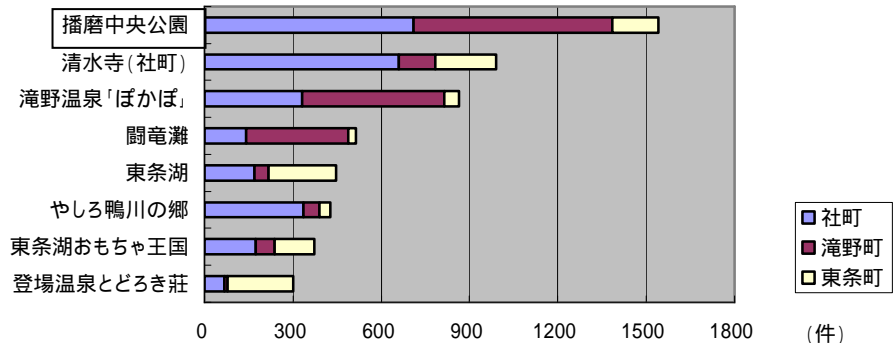
【図 - 2】

年間利用者数



当公園は広域的な利用の一方で、地元加東市をはじめ北播磨地域の居住者が全体の約4割を占めており【図 - 1 参照】、また、加東市民から「地域やまちの誇り・町外の人を訪れた時に連れて行きたいと思うところ」の第1位に選ばれるなど、地域のシンボルとして愛される公園となっている。

【図 - 3】 加東郡合併に伴う住民アンケート



(あなたの地域やまちの誇り・町外の人を訪れたいときに連れて行きたいと思うところについて)

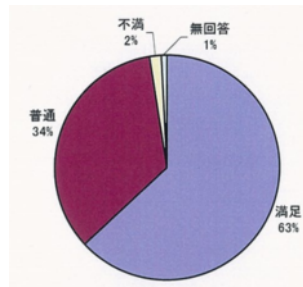
(出典:加東郡合併協議会の住民アンケート結果(平成15年9月発行))

利用者の多様なニーズへの対応  
(休養・休息の場、スポーツ・健康運動の場、レクリエーションの場、散策活動の場、地域住民の交流の場の提供)

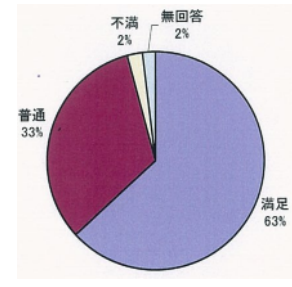
利用者の約6割以上の方に満足していただいている。

【図 - 4】

施設・設備に対する満足度



管理運営に対する満足度

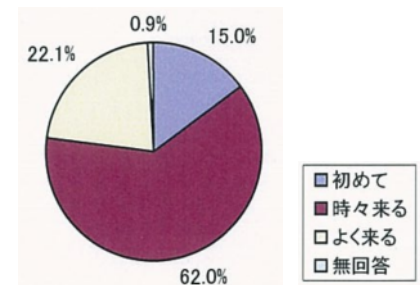


【平成18年利用実態調査】

- ・実施者 : 指定管理者((財)兵庫県園芸・公園協会)
- ・調査日 : 平成18年11月3日~30日
- ・調査結果 : 回答者総数421人

年間利用回数は、「時々来る」が全体の約6割、「よく来る」が約2割であり、全体の約8割をリピーターが占めている。

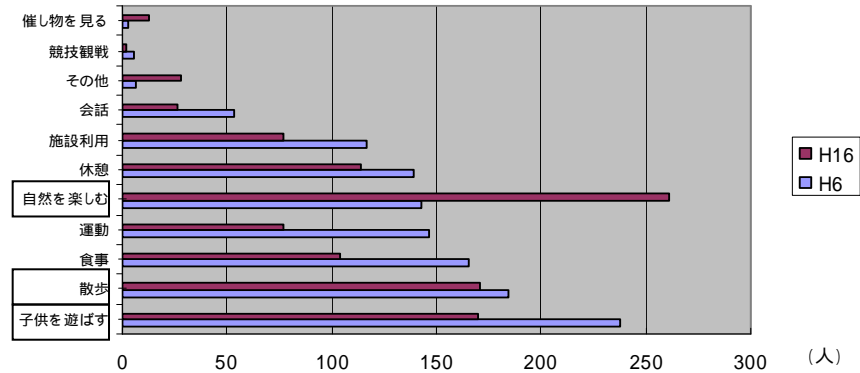
【図 - 5】年間利用回数



公園での利用目的の変化等を把握するため、平成6年10月実施利用実態調査と約10年経過した平成16年5月実施利用実態調査を比較してみると、両時点とも、「子供を遊ばす」、「散歩」、「自然を楽しむ」が上位を占め、自然の中でゆったりとくつろぐ家族のふれあいの場、休養・休息の場、散策活動の場として機能している。【図 - 6 参照】

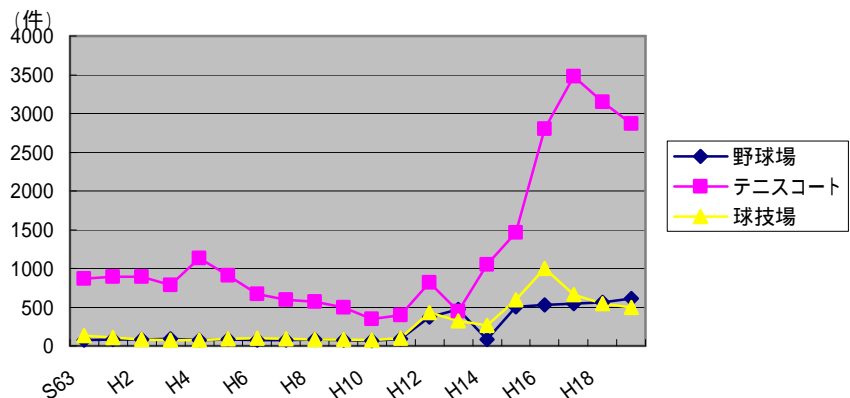
一方では、平成6年と平成16年では「子供を遊ばす」から「自然を楽しむ」へとその重点が変化しており、自然に対する意識の高まりや公園にもとめる利用者のニーズの変化がうかがえる。【図 - 6 参照】

【図 - 6】 公園利用目的



運動施設については、平成 13 年度～平成 15 年度に改修を実施した結果、利用件数は増加傾向にある。特にテニスコートの利用は、老朽化したアスファルトコートを砂入り人工芝へ改修(H13)するとともに、平成 16 年度に利用料金の見直し(900 円/1h 500 円/1h)を実施したところ、飛躍的に利用件数が増加した。また、野球場、球技場も同様に増加傾向にあり、スポーツ・健康運動の場として機能している。

【図 - 7】 運動施設の利用申込件数



観光振興等地域活性化への効果

「平成 18 年度兵庫県観光客動態調査報告書」によると、当公園は北播磨地域の主要観光地として、広く認知されており、観光振興等地域活性化へ大いに寄与している。

同報告書から、当公園は北播磨地域の「主要観光地」として位置づけられ、主要観光地のうち、北播磨地域の総入込者数の約 4% を占め、入込者数がトップとなっている。

県民の森として整備された桜の園は、苗木から植栽し現在北播磨地域有数の桜の名所となっている。

当公園では、桜まつり(【写真 2 参照】)の他新緑まつり(76 千人)、春のばらまつり(14 千人)、秋のばらまつり(2 千人)など多くのイベントが開催されて、多数の利用者がある。( )は平成 19 年度のイベント参加者

また園路やサイクリングコース(【写真 3 参照】)を活用した「OTTY マラソン全国大会(5 千人)」、「サイクルスポーツ夏 in 播磨中央公園(4 千人)」、「ひょうごキッズふれあいマラソン大会(2 千人)」等のスポーツ大会が定着し、多くの参加者、見学者がある。( )は平成 19 年度のイベント参加者

平成 16 年度より住民参画と協働による「はりちゅう夢ステージ」等のイベントを 11 月に実施しており、毎年概ね 2 千人程度の方が参加されている。【写真 4 参照】

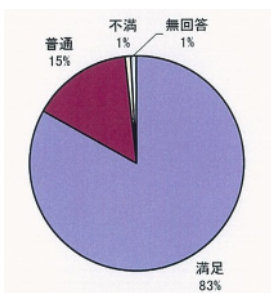
<p>【間接効果】 周辺まちづくりへの効果</p> <p>防災機能の向上</p>	<p>旧滝野町では、播磨中央公園の事業化を機に、公園周辺に町の行政機能を集約的に整備させ、公園周辺での市街化など公園と一体となったまちづくりが進められてきた。これらのことから、まちの誇りとして播磨中央公園が第1位となるなど、住民からも高く評価されている。【図-3参照】【写真1参照】</p> <p>平成10年度策定の兵庫県地域防災計画において、北播磨地域の広域防災拠点として位置づけられ、芝生広場や園路等を活用した物資集配及び集結・宿泊基地としての機能を担っている。</p>
<p>事業実施による周辺環境への影響</p>	
<p>良好な自然環境の保全と活用</p>	<p>利用実態調査によると、園内の自然環境に対して、利用者の約8割の方に満足していただいております。心の安らぎの場を提供しています。</p> <p>【図-8】</p> <p>自然環境に対する満足度</p>  <p>【平成18年利用実態調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施者：指定管理者（（財）兵庫県園芸・公園協会）</li> <li>・調査日：平成18年11月3日～30日</li> <li>・調査結果：回答者総数421人</li> </ul> <p>全面積181.7haのうち、約45%に相当する自然林をそのまま保全しつつ活用し、極力自然の改変を抑え施設整備を行った。また整備した区域には、花木をはじめ様々な植栽を行い、緑を回復するとともに四季の趣の度合を高めている。</p> <p>当公園の整備及び管理運営により、永続的に緑地として保全される。</p>
<p>特徴的な取組み</p>	
<p>地域の歴史的文化遺産の保存</p> <p>本公園では、神戸電鉄粟生線加古川橋梁の架け替えにともない、全国的にも貴重な1880年代の英国の錬鉄製ポニーウォレントラスの寄贈を受け、平成15年に播磨中央公園に移設、歩道橋として恒久的に保存するなど、地域の歴史的文化遺産の保全にも寄与している。</p>	
<p>改善措置の必要性</p>	
<p>施設整備</p> <p>本公園については、これまでに遊び場（H2～H3年度）運動施設（H13～H15年度）などの修繕・改修を実施しており、現時点での改善措置の必要性はない。今後、当初開園時に設置された野外ステージ等については、整備後30年を経ていることから、安全点検を強化し、必要に応じて修繕・改修を行う必要がある。</p> <p>管理運営</p> <p>播磨中央公園においても、H15年度から「播磨中央公園管理運営協議会」を設置し、参画と協働による公園運営を進めてきた。しかし、有馬富士公園等の先進公園と比較すると、参画と協働による活動が定着していない。このため、平成20年度から、有馬富士公園をモデルに、管理事務所に参画と協働の窓口となるパークコーディネーターを配置し、住民参加型プログラムの主催や住民自主企画運営プログラムの受け入れなど、参画と協働の定着を図っている。</p>	
<p>同種事業の計画・調査・事業実施のあり方、事業評価手法の改善等</p>	
<p>- 「つくる」から「つかう」へ -</p> <p>今後の都市公園事業の実施にあたっては、平成18年3月策定の兵庫県立都市公園の整備・管理運営の基本方針（4つの目標、14の方針）に基づき、有馬富士公園のように計画・整備段階から協議会を設置し、参画と協働による公園づくりを進めるとともに、当初開園時から、公園に参画と協働を支援する仕組を充実させ、様々な活動団体の受け入れや、公園サポーターの養成を積極的に実施するなど、県民と共に育てる魅力ある公園づくりを進める必要がある。</p> <p>整備「つくる」に関しては、自然環境の保全や創出の他、環境学習や子育て支援など、時代の変化に対応できる公園づくりを進めるとともに、本公園のように、地域との連携を重視し、まちづくりや地域活性化に資する公園づくりを実施していく必要がある。また「つかう」においては、参画と協働の活動を公園内に留まらず、活動の場を公園から地域へ発展させるような取り組みを実施する必要がある。</p>	

写真1 播磨中央公園周辺の社会状況の変化

【昭和49年当時】



【平成19年】

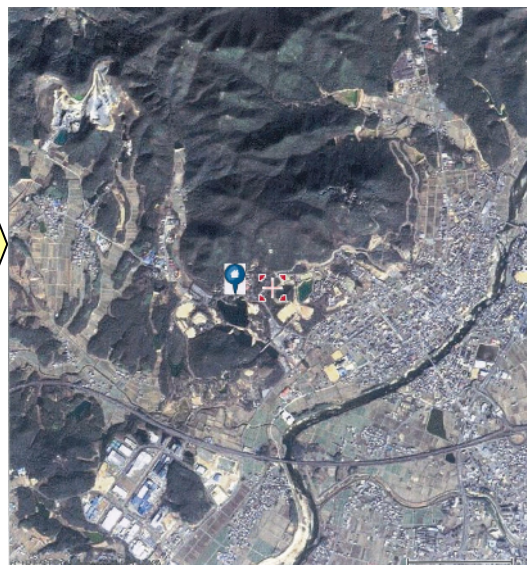


写真2 桜の園・桜まつり



写真3 サイクルランド(サイクリングコース)



写真4 はりちゅう夢ステージ

# 播磨中央公園平面図

